

豊橋市陸上競技場本部スタンド整備の基本的な考え方

目 次

1. 現状と整備の趣旨
2. 建設地
 - (1) 位置
 - (2) 位置図
3. 施設整備における基本方針
 - (1) 誰もが快適に利用できる施設
 - (2) 競技運営がスムーズに行える施設
 - (3) 環境に配慮した施設
 - (4) 災害時にも安全・安心して利用できる施設
4. 施設の概要
 - (1) 改築施設（現況）
 - (2) 本部スタンド改築後の想定
 - (3) 各室等の概要
5. 陸上競技場の利用状況
 - (1) 利用者数
 - (2) 利用形態
6. スケジュール
7. 想定事業費

1. 現状と整備の趣旨

豊橋市陸上競技場は、昭和 24 年に豊橋公園の一角に造られ、現在第 3 種公認の陸上競技施設として、青色全天候トラック 1 周 400m 8 レーン、全天候フィールド、直走路 145m などが整備されており、現在、豊橋市を中心とした東三河地域の小中学校等の陸上競技大会の会場として活用され、陸上競技以外でも、サッカーやゲートボール、グラウンドゴルフの大会など多様な活用がされている。

平成 2 年度に策定された「豊橋公園整備構想」では、豊橋公園内のスポーツ施設は神野新田地区に新たに整備するスポーツ拠点「総合スポーツ公園」に順次移転する計画であったが、社会情勢の変化、厳しい財政状況等により、平成 14 年度に既存施設を活用する「整備の基本的な考え方」をまとめ、平成 22 年度に「人が集い、安らぎのある空間として、既存のスポーツ・文化施設を最大限に活用し、その機能を高めるとともに自然と調和のとれた、風格のあるシンボル公園にふさわしい整備を基本とする」という整備の方向性が決められている。この中で、陸上競技場については、スタンド改修を行い、施設の整備・充実を図ることが示されている。

現在の本部スタンドは、昭和 35 年 11 月に竣工した鉄筋コンクリート造 2 階建、600 席を持つ施設であるが、建築後 50 年以上経過して老朽化が進んでいる。そのため、本部スタンド、記録室（写真判定室）及び両翼の屋根付きスタンドを含めた既存施設を撤去したうえで、新たに会議室や更衣室などを備えた、東三河の中核都市にふさわしい 1,500 席規模の本部スタンド施設を整備する。

2. 建設地

(1) 位置

陸上競技場 豊橋市今橋町 4（豊橋公園内）

現在の本部スタンド、屋根付スタンド及び記録室の位置に建て替える。

(2) 地域地区

第一種住居地域、都市計画公園、第三種風致地区

(3) 位置図

別紙

3. 施設整備における基本方針

(1) 誰もが快適に利用できる施設

- ・雨天でもウォーミングアップ等ができる屋内雨天練習走路設置
- ・ユニバーサルデザインの観点で、だれにもやさしく使いやすいバリアフリーな整備

(2) 競技運営がスムーズに行える施設

- ・各種大会に対応できる充実した施設整備
- ・選手、観客、運営、来賓室、メディアの明確な動線分離
- ・東海大会レベルの誘致

(3) 環境に配慮した施設

- ・太陽光発電設備の整備

(4) 災害時にも安全・安心して利用できる施設

- ・都市公園の広域避難場所として活用できる施設とする。

4. 施設の概要

(1) 改築施設（現況）

- ・本部スタンド（S35）（本部席、倉庫、便所を含む） 600 席
 1階鉄筋コンクリート造 78.47 m²
 2階鉄骨波型スレート葺 127.33 m²
- ・屋根付スタンド（H16） 鉄骨造平家建 265.87 m² 900 席
- ・記録室競技施設（H14） 鉄骨造平家建 45.00 m²

(2) 本部スタンド改築後の想定

屋根付席 1,500

建築面積 約 1,300 m²（114m×11.5m程度）

（協会の要望も 1,500 人であり、東三河の大会では、中学 800 人、高校 600 人の選手が参加する。）

部屋名	現況	改築後用途等	想定規模
本部席	有 36 m ²	大会本部用 約 20 人	40 m ² 程度
会議室兼役員室	無	審判員・各種目役員等控室 約 100 人 諸会議に使用可（仕切分割）	100 m ² 程度
記録室	有 45 m ²	競技結果集約記録用	40 m ² 程度
医務室	無	応急手当用	15 m ² 程度
報道記者室	無	報道関係記者等控室	15 m ² 程度
身障者観覧室	無	車椅子使用者観覧用	15 m ² 程度
器具倉庫	有 149 m ²	ハードルほか 3 種公認に必要な器具等の収納	200 m ² 程度
トイレ	有 3カ所計 男小6 大2 女大3	選手、観客用 2 箇所（1 箇所に男性用小便器 7 基・大便器 2 基、女性用 8 基程度） 役員用 1 箇所（男性用小便器 1 基・大便器 1 基、女性用 2 基程度） 身障者用 1 基	男：小 15 基 大 5 基 女：大 18 基 身障者：1 基
シャワー・更衣室	有 72 m ²	男女各 1 箇所（50 m ² ×2 か所）	100 m ² 程度
その他	無	各室以外ピロティーや通路部分は開放スペース（選手控え場所等）	675 m ² 程度
練習走路	無	選手ウォーミングアップ、雨天練習用（3レーン）	100m程度
写真判定室	有 45 m ²	写真判定システムカメラ設置、操作作業用	10 m ² 程度
放送室	有 8 m ²	場内放送用	15 m ² 程度
来賓室	無	大会来賓者用室	15 m ² 程度

(3) 改築後の各室等の主な概要

本部席	陸上競技大会等において、大会本部として 20 人程度の本部役員が大会運営に使用することを想定している。
会議室兼役員室	陸上競技大会等において、審判員や各種目の役員等、100 人程度の控室として使用するほか、数部屋に仕切り会議室として諸会議にも使用できるように配置する。また、災害時には、雨露をしのぐスペースとして活用する。
身障者観覧室	車椅子の観客 5 人程度が競技場を観覧できるように配置する。
器具倉庫	第 3 種公認陸上競技場に必要、ハードルやスターティングブロック、砲丸などの各種備品等が収納できて、出し入れがしやすいように配置する。
写真判定室	フィニッシュライン延長線上に配置し、既存の写真判定システムカメラを移設し、同室内で数人が操作作業できるようにする。
放送室・来賓室	陸上競技場内が見渡せる部分に、場内放送のための放送室及び大会来賓者等が観覧できる控室を設置する。
練習走路	選手がウォーミングアップや雨天練習ができるように、100m 程度の直線コースを 3 レーン以上設置する。また、災害時には、緊急支援物資の備蓄場所として活用する。
ピロティー・通路	ピロティーや通路部分は、自由に競技場に入出入り可能な常に開放されているスペースとし、大会時には選手控え場所等として使用する。また、災害時には、炊き出しができるようにする。

5. 陸上競技場の利用状況

(1) 利用者数

	H20	H21	H22	H23	H24	H25
年間利用人数	43,349 人	49,747 人	30,949 人	57,286 人	56,564 人	59,897 人
うちナイター利用人数	2,472 人	3,474 人	1,767 人	3,988 人	3,927 人	4,080 人

※22 年度は 11 月 1 日から 3 月 23 日までフィールド改修工事実施

(2) 利用形態

(ア) 陸上記録会・各種大会等

陸上競技場は、現在、豊橋市を中心とした東三河地域の小中学校等の陸上競技大会の会場として活用されており、陸上競技以外にも、サッカーやゲートボール、グラウンドゴルフの大会など多様な活用がされている。

(イ) 陸上の個人練習等

小・中・高等学校や社会人の陸上のクラブ練習など、多くの市民が利用している。

6. スケジュール

地質調査	平成 25 年度
基本設計	平成 26 年度
実施設計	平成 27 年度
建築工事	平成 28～29 年度
供用開始予定	平成 30 年度

7. 想定事業費

建替えに係る建設総工事費 約 8 億円